

土木建築委員会 県内所管事務調査の概要

【平成30年1月11日（木）】

◆調査箇所：大分川ダム（大分市大字下原地先）

＜概要＞

大分川ダムは、昭和62年に事業着手し、大分川水系七瀬川上流に建設中の多目的ダムであり、全国的にも珍しいロックフィルダム（岩石や土を積み上げて作るダム）である。

昨年、ダム本体盛立工事が完了し、平成31年度の完成に向け、今年2月から試験湛水を行う予定となっている。

完成後は、洪水調節、河川環境の保全、水道用水の確保に大きな役割を果たすことが期待される。



＜主な質疑等＞

- ・ダムの構造について
- ・流木対策について

◆調査箇所：津久見川（津久見市）

＜概要＞

昨年9月の台風第18号に伴う記録的豪雨は、県南部を中心に河川の氾濫や土砂崩れなどの甚大な被害をもたらした。

津久見市の津久見川では、氾濫により市中心部に大規模な浸水被害が発生したが、河川激甚災害対策特別緊急事業として採択され、平成34年度までの5年間で河道等の拡幅や橋梁の改築を行い、治水安全度を高めていく予定となっている。



＜主な質疑等＞

- ・国庫補助について
- ・発災当時の状況について

◆調査箇所：四浦日代線大元工区（津久見市四浦字大元）

＜概要＞

台風第18号では道路災害による道路の全面通行止めが115箇所発生した。

津久見市四浦地区の県道四浦日代線は、法面の崩壊により寸断され、住民が孤立した状況となったが、津久見市が臨時船便を用意して孤立を解消すると共に、県による応急復旧で現在は仮設道路が整備されている。

今後は、崩落した斜面の対策工を行い、本格的な復旧に取り組んでいく。



＜主な質疑等＞

- ・孤立集落の解消について